



試験結果報告書

試験表題 : ウイルス不活化試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : SARS-CoV-2

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試ウイルス液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区のウイルス力価を測定した。
なお、開始時のウイルス力価については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	7.1			7.1
試験区		<1.5	<1.5	<1.5

単位 : log(TCID50/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.99%	>99.99%	>99.99%
-----	---------	---------	---------

考察

今回、試験資材のSARS-CoV-2 (新型コロナウイルス) に対する不活化効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.99%以上の不活化効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本



試験結果報告書

試験表題 : ウイルス不活化試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : ネコカリシウイルス (F9株)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試ウイルス液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区のウイルス力価を測定した。
なお、開始時のウイルス力価については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	7.5	7.5	7.5	7.5
試験区		2.7	1.7	<1.5

単位 : log(TCID50/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.99%	>99.99%	>99.99%
-----	---------	---------	---------

考察

今回、試験資材のネコカリシウイルスに対する不活化効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.99%以上の不活化効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本



試験結果報告書

試験表題 : 除菌試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : 大腸菌O157 (ATCC700728)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試菌液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区の菌数を測定した。
なお、開始時の菌数については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	7.3			7.3
試験区		<2.0	<2.0	<2.0

単位 : log(cfu/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.99%	>99.99%	>99.99%
-----	---------	---------	---------

考察

今回、試験資材の大腸菌O157に対する除去効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.99%以上の除去効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本



試験結果報告書

試験表題 : 除菌試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : 黄色ブドウ球菌 (ATCC6538P)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試菌液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、5分、10分及び30分について各試験区の菌数を測定した。
なお、開始時の菌数については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (分)			
	0	5	10	30
対照区	8.7	8.0	7.8	7.5
試験区		6.8	6.6	3.9

単位 : log(cfu/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	93.69%	93.69%	99.97%
-----	--------	--------	--------

考察

今回、試験資材の黄色ブドウ球菌に対する除去効果を確認した。
その結果、試験資材において、30分の反応で99.9%以上の除去効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本

試験結果報告書

試験表題 : 除菌試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : サルモネラ (L58株)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試菌液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区の菌数を測定した。
なお、開始時の菌数については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	7.5			7.6
試験区		<2.0	<2.0	<2.0

単位 : log(cfu/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.99%	>99.99%	>99.99%
-----	---------	---------	---------

考察

今回、試験資材のサルモネラに対する除去効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.99%以上の除去効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本



試験結果報告書

試験表題 : 除菌試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : 緑膿菌 (NBRC13725)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試菌液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区の菌数を測定した。
なお、開始時の菌数については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	7.1			7.1
試験区		<2.0	<2.0	<2.0

単位 : log(cfu/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.99%	>99.99%	>99.99%
-----	---------	---------	---------

考察

今回、試験資材の緑膿菌に対する除去効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.99%以上の除去効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本

試験結果報告書

試験表題 : 除菌試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
供試微生物 : レジオネラ (野外分離株)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験区、陰性対照区及び陽性対照区を設け、試験管内に各10mLを用意した。
- ② 両区の試験管に供試菌液を1mL接種した。
- ③ 接種後0分、30秒、60秒及び300秒について各試験区の菌数を測定した。
なお、開始時の菌数については、対照区のみの実施とした。
- ④ 得られた結果から、対照区と比較した時の各試験区の減少率を算出した。

試験結果

区	感作時間 (秒)			
	0	30	60	300
対照区	5.3			5.2
試験区		<2.0	<2.0	<2.0

単位 : log(cfu/mL)
定量限界 : 1.5

減少率	>99.9%	>99.9%	>99.9%
-----	--------	--------	--------

考察

今回、試験資材のレジオネラに対する除去効果を確認した。
その結果、試験資材において、30秒の反応で99.9%以上の除去効果があることが判明した。

試験担当者 : 遠藤

試験責任者 : 松本

試験結果報告書

試験表題 : 急性経口毒性試験 (限度試験)
試験番号 : 217001N
検体 : W4
試験期間 : 2021年11月4日～2021年11月18日
供試動物 : マウス (ddY) 投与時週齢11週齢 (雄5匹、雌5匹)

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 投与に際してはマウスを投与前4時間絶食させ、経口ゾンデを用いて胃内に経口投与した。
- ② 投与はOECD420を参考に2mL/体重100gとし、観察期間は2週間とした。
- ③ 観察終了時に剖検し、肉眼的観察を行った。

試験結果

	平均体重 (g)			臨床症状	剖検時
	0日	7日	14日		
雄	39.45±0.51	41.51±0.81	43.55±1.13	異常なし	異常なし
雌	33.84±0.50	34.80±0.43	35.74±0.29	異常なし	異常なし

考察

今回、試験資材のマウスに対する急性経口毒性試験を実施した。
その結果、試験資材において、単回経口投与による半数致死量 (LD50) は2mL/体重100g、すなわち20mL/体重1kgを超えると推測された。

試験担当者 : 佐藤太、岸田和叡

試験責任者 : 宮本正志

試験結果報告書

試験表題 : 急性皮膚刺激性・腐食性試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
試験期間 : 2021年11月28日～2021年12月1日
供試動物 : ウサギ（日本白色種） 投与時週齢10週齢（雄3匹）

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 投与の24時間前に供試動物の胴体背部を毛刈りし、被毛を除去した。
供試動物1匹につき、2 cm×3 cmの区画を2箇所設定し、そのうち一方を投与部位とし、他方を対照部位とした。
- ② 試験資材0.5 mLをガーゼパッチに塗布し、そのガーゼパッチを投与部位に付け、非刺激性テープで固定し、更にも上から包帯を巻き接触を保持し、曝露を開始した。
なお、対照部位は無処置とした。
- ③ 曝露開始4時間後、パッチを除去し、投与部位を蒸留水で洗浄し、除去後1、24、48および72時間に投与部位における紅斑・痂皮形成および浮腫形成をスコア化した。

試験結果

動物番号	部位	パッチ除去後の時間			
		1時間	24時間	48時間	72時間
1	投与部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
	対照部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
2	投与部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
	対照部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
3	投与部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
	対照部位	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし

考察

今回、試験資材のウサギに対する急性皮膚刺激性・腐食性試験を実施した。
その結果、試験資材において、ウサギの皮膚に対して、紅斑・痂皮形成および浮腫形成を示さず、その他の異常も認められなかったことから総合的に判断し、皮膚刺激性および皮膚腐食性を有するとは評価されなかった。

試験結果報告書

試験表題 : ウサギにおける急性眼刺激性試験
試験番号 : 217619N
検体 : W4
試験期間 : 2022年3月23日～2022年4月2日
供試動物 : ウサギ（日本白色種） 投与時週齢10週齢（雄3匹）

試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

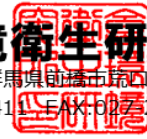
- ① 試験資材投与の60分前に、ブプレノルフィン0.01 mg/kg（ブプレノルフィン注0.2 mg「日新」、日新製薬社製）を皮下投与した。
試験資材投与の5分前に、点眼局所麻酔剤（ネオベノール点眼液0.4%、日本点眼薬研究所製）1滴を両眼に点眼した。対照眼には試験資材は投与せず、局所麻酔剤のみを投与した。
- ② 供試動物の左眼下瞼を静かに眼球から離れた後、結膜嚢に試験資材0.1 mLを滴下した。試験資材の流出を防ぐため、次いで1秒間、瞼を静かに閉じた。未処理のままの右眼を対照とした。
- ③ 試験資材投与1、24、48及び72時間後に眼反応（角膜、虹彩及び結膜）を観察し、採点した。投与72時間後までの観察で、最も高い時点の平均総合評点を選び評価した。

試験結果

動物番号	部位	眼病変合計スコア			
		1時間	24時間	48時間	72時間
1	試験眼	1	1	1	1
	対照目	0	0	0	0
2	試験眼	1	1	1	1
	対照目	0	0	0	0
3	試験眼	1	1	1	1
	対照目	0	0	0	0

考察

今回、試験資材のウサギに対する急性眼刺激性試験を実施した。
その結果、全供試動物の眼球において、異常反応は認められなかった。
よって、試験資材である「W4」はウサギに対して眼刺激性を示さず、無刺激物と評価された。



試験結果報告書

試験表題 : 急性皮膚刺激性・腐食性試験
試験番号 : 217001N
検体 : W4
試験日 : 2022年1月10日
臭気 : アンモニア、メチルメルカプタン、イソ吉草酸

上記検体につきまして、試験結果を以下のとおり報告いたします。

試験方法

手順

- ① 試験臭ごとに10Lのテドラーバッグを2袋（各区1袋ずつ）用意し、無臭空気を充填させた。
- ② 一定のガス濃度となるように臭気ガスを充填した。
- ③ ガス検知管を用い、初期濃度を確認した後、試験区はテドラーバッグ内に資材3mLを噴霧した。
なお、対照区は無処置とした。
- ④ 噴霧後30秒及び5分後にガス検知管を用い、ガス濃度を測定した。

試験方法

臭気	区	資材噴霧	検査時点		
			初期	30秒後	5分後
アンモニア	対照区	なし	100	100	100
	試験区	あり	100	60	60
メチルメルカプタン	対照区	なし	8	8	8
	試験区	あり	8	6.5	6.5
イソ吉草酸	対照区	なし	40	40	40
	試験区	あり	40	20	15

単位 : ppm

試験結果

今回、試験資材の各臭気に対する効果を確認した。
その結果、検体を噴霧することによって、臭気濃度が低減することが確認された。

試験責任者 : 宮本 試験担当者 : 加藤